

[特集] 大学の学びについて知ろう!



中京大学の FDとは

FDとは、授業内容・方法や広く大学の教育に係る活動を改善し向上させるための組織的な取り組み (Faculty Development) のことを意味します。中京大学では、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して学生・教員・職員(三者)がベストを尽くすもの(For Doing our best)とらえています。

CONTENTS

[特集] 大学の学びについて知ろう!

- 大学の授業ってどうなっているの? ②
- 授業の履修にはシラバスを活用しよう ③
- 科目ルーブリックとは? ④
- CHUKYO MaNaBoで大学の「学び」を充実させよう ⑤
- 事前・事後学習に取り組もう ⑥
- 授業改善のためのアンケート ⑦
- アクティブ・ラーニング活用推進に向けた取り組み ⑧

大学の授業ってどうなっているの？

大学の授業の仕組み

● 大学のカリキュラム※1

大学のカリキュラムは、全学共通科目と、学部固有科目から構成されています。全学共通科目の履修を通じて総合的な知識を身につけるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨きましょう。学部固有科目では専門的な知識や技術、課題の発見から解決方法までを身につけます。それぞれの学部・学科(専攻)の教育研究上の目的が学生便覧に載っていますので、まずはその目的を理解しましょう。

● 授業の選び方

大学の授業は、必修科目※2、選択必修科目、選択科目の3つに分類することができます。まずは学生便覧でカリキュラムをしっかり理解しましょう。次に、自分が履修すべき授業は事前にシラバスで内容をチェックしましょう。選択科目はたくさんの授業の中から興味のある科目を履修することができます。授業を選ぶときはシラバスをよく読んで、自分が身につけたい分野の授業を選択しましょう。また、学科目時間割表も忘れずに確認しましょう。

● 授業を選ぶ上で最低限必要なアイテム

学生便覧、学科目時間割表、シラバス。これらは中京大学ホームページで参照できます。

大学の授業って高校の授業とどう違うのかな？



大学の授業は基本的には自分で4年間の履修計画を立ててどの授業を受けるか決めるんだよ。



まず必修科目を取らないといけないんですね！でも選択必修や選択科目は？内容もわからないし…



大丈夫。そんなときのために大学にはシラバスがあるんだよ。



シラバスってどんなことが書いてあるのかな？なんか難しそう…



ではシラバスがどんなものであるか見てみよう。次のページがシラバスの具体例だよ。



POINT1

確認しよう！ **まずは学生便覧を** どの年次にどの科目を受講することができるのか、学生便覧の科目一覧表のページに記載されています。

POINT2

自分の将来や興味に関係ある科目を見つけよう！ 大学ではセメスター※3ごとに履修できる単位数の上限が決まっています(履修登録制限単位)。必修科目を確認した後は、選択必修科目や興味のある科目を探し、制限単位の範囲内で履修科目を決めましょう。資格取得に必要な科目など、履修登録制限単位に含まれない科目もあります。

POINT3

授業内容はシラバスで確認しよう！ 科目の授業内容はシラバスに書いてあり、パソコンを使用して大学のホームページで確認できます。詳しくは学生便覧の「大学からのお知らせ」ページを確認してください。わからない時には教務課で質問してください。

不安・疑問を
放置しない

用語解説

※1 **カリキュラム (教育課程)**
教育目標を達成するために、学修段階に応じて編成した4年間にわたる教育内容の計画のこと

※2 **必修科目**
卒業するために必ず修得しなければならない科目

※3 **セメスター**
1年を春学期と秋学期に分け、各学期ごとに単位認定を行う制度のこと



教務課職員を上手に頼ろう！

教務課職員からのメッセージ

大学には、主役である学生のみなさんに加え、教員と呼ばれる授業を教える立場の人、職員と呼ばれる大学生活を支援する立場の人が存在します。その中で私たち教務課職員は、学生のみなさんの学修を支援する立場にあります。

みなさんが大学で学修する上でまず行うことは、自分オリジナルの時間割作成です。大学の時間割は、各自が受ける科目を選び、作り上げていきます。わからないことがあれば積極的に教務課に来て相談してください。大学で授業(学び)を充実させる上でも、私たち職員を活用してください。

授業の履修にはシラバスを活用しよう!

～シラバスの見方や活用法を解説～

シラバスとは?

授業の概要や方法、評価基準などが記載されている授業ひとつひとつのカタログです。履修登録をする際にどの授業を履修するかを決める重要な資料となります。

シラバスの概要

授業方法

どのように授業を展開するのか書いてあるよ。講義形式などを確認しよう。

質問への対応

授業に関する質問を、いつ、どこで、どのように受け付けるのかをここで確認しよう。

授業計画

授業の各回で何を学習するのかがあらかじめわかるよ。予習する手がかりにしよう。

履修者へのコメント

授業を履修する上での注意事項やアドバイスが書いてあるよ。

学修到達目標

この授業を履修すると、どのようなことが身につくか確認できるよ。

成績評価方法・基準

どのように成績をつけるのか、課題・試験の成績への反映比率などがわかるよ。

事前事後学習

授業の予習や復習に関することが書いてあるよ。

CHUKYO MaNaBo

トップ | マイページ | クラス | メール | 設定 | ルーム | 使い方 | シラバス | リンク

学生

シラバス詳細

PDFダウンロード 一覧画面に戻る お気に入りリストに追加

科目名	中京大学を知る	開講年次	1～4年次春学期(1・3・5・7semester)	単位	2																																																
副題	建学の精神と歴史から本学の特性を理解する	曜日	月曜	時間	4時																																																
授業概要・目的	自身が学ぶ大学について関心を持ち理解を深めることは、大学生活を豊かなものにしていくことにつながる。それは中京大学である一助ともなる。本授業では、大学の使命・目的・歴史に始まり、中京大学の歴史に関する「開学前史」、「開学から60年のあゆみと課題」、「将来像」等を題材とした学修を通じて、自校の理解を深める。日本の経済・社会や中京大学との関係性のなかに中京大学が置かれているという社会経済史的視点を重視しつつ、「中京大学の特性」を明らかにするため、他大学の歴史との比較も行う。																																																				
学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 中京大学の学生としての自覚を高め、「校訓」、「建学の精神とその因大綱」をふまえて、本学の理念と歴史を学び、説明できるようになる。 本学の歴史を日本の歴史の中で位置付け、他大学と比較して本学の現状を評価し、中京大学の特性を説明できるようになる。 																																																				
授業方法	主な担当である岡部英樹(経済学部教授)が事前に指定した教材に基づいて授業をすすめる。教材となる話題を提供いただくゲストスピーカー(別記)を招く場合もある。各回は担当者の授業と履修者のレポート作成によって構成される。																																																				
成績評価方法・基準	毎回の講義レポートを重視する 70% 定期試験のかわりに課題レポートを課す 30%																																																				
教科書・教材・参考文献	教科書・教材 開学60周年記念誌『中京大学六十年の歩み』(2014年5月刊)ほか。必要に応じて授業中に紹介する。 参考文献																																																				
質問への対応(オフィスアワー等)	基本的に授業中に対応する。 オフィスアワーについては各担当から指示する。																																																				
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業ガイダンス</td> <td>「中京大学を知る」で何を学ぶのか、中京大学の特性とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大学とは</td> <td>「大学の使命・目的・歴史、世界と日本の大学、中京大学」、ゲストスピーカー・長滝祥司(国際教養学部教授)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>開学前史 ①</td> <td>学園創立・中京商業学校開校のころ、100年前の中京名古屋、中京経済圏の成立と開校の背景</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>開学前史 ②</td> <td>学園創立者の生きた時代と校訓、「学園創立者の人物像と校訓」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>開学前史 ③</td> <td>中京商業学校の歩み、戦中・戦後の中京名古屋、新制中京商業高校と短大開学のころ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中京大学の歩み ①</td> <td>大学開学者の生きた時代と建学の精神、「大学開学者の人物像と建学の精神」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中京大学の歩み ②</td> <td>1955～65年の経済・社会と中京大学、2学部の時代</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中京大学の歩み ③</td> <td>1966年以降の経済・社会と中京大学、4学部の時代</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>中京大学の歩み ④</td> <td>スポーツ史からみた中京大学、「中京大学とオリンピック選手」、ゲストスピーカー・栗田真子(スポーツ科学部教授)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中京大学の歩み ⑤</td> <td>1986年以降の経済・社会と中京大学、総合大学の時代</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中京大学の歩み ⑥</td> <td>2000年以降の経済・社会と中京大学、改革の時代</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>中京大学の現状</td> <td>日本の大学と中京大学の今、現代的課題への取り組み、「男女共同参画とキャンパス・ハラスメント」、ゲストスピーカー・岡部英樹(国際教養学部教授)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>中京大学の現状</td> <td>日本の大学と中京大学の今、学術・研究の観点からみた特性、「研からみた中京大学の特色」、ゲストスピーカー・桑村監生(学長補佐)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>中京大学の将来</td> <td>日本の大学と中京大学の将来像、学園創立100周年、大学開学70周年に向かって、「ミュージアムと中京大学」、ゲストスピーカー・亀井哲也(現代社会学部教授)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>中京大学の特性</td> <td>歴史からみた中京大学の特性を考える、「今、大学に求められていること、今、中京大学が目指していること」、ゲストスピーカー・安村仁志(学長)</td> </tr> </tbody> </table>					No.	項目	内容	1	授業ガイダンス	「中京大学を知る」で何を学ぶのか、中京大学の特性とは	2	大学とは	「大学の使命・目的・歴史、世界と日本の大学、中京大学」、ゲストスピーカー・長滝祥司(国際教養学部教授)	3	開学前史 ①	学園創立・中京商業学校開校のころ、100年前の中京名古屋、中京経済圏の成立と開校の背景	4	開学前史 ②	学園創立者の生きた時代と校訓、「学園創立者の人物像と校訓」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)	5	開学前史 ③	中京商業学校の歩み、戦中・戦後の中京名古屋、新制中京商業高校と短大開学のころ	6	中京大学の歩み ①	大学開学者の生きた時代と建学の精神、「大学開学者の人物像と建学の精神」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)	7	中京大学の歩み ②	1955～65年の経済・社会と中京大学、2学部の時代	8	中京大学の歩み ③	1966年以降の経済・社会と中京大学、4学部の時代	9	中京大学の歩み ④	スポーツ史からみた中京大学、「中京大学とオリンピック選手」、ゲストスピーカー・栗田真子(スポーツ科学部教授)	10	中京大学の歩み ⑤	1986年以降の経済・社会と中京大学、総合大学の時代	11	中京大学の歩み ⑥	2000年以降の経済・社会と中京大学、改革の時代	12	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、現代的課題への取り組み、「男女共同参画とキャンパス・ハラスメント」、ゲストスピーカー・岡部英樹(国際教養学部教授)	13	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、学術・研究の観点からみた特性、「研からみた中京大学の特色」、ゲストスピーカー・桑村監生(学長補佐)	14	中京大学の将来	日本の大学と中京大学の将来像、学園創立100周年、大学開学70周年に向かって、「ミュージアムと中京大学」、ゲストスピーカー・亀井哲也(現代社会学部教授)	15	中京大学の特性	歴史からみた中京大学の特性を考える、「今、大学に求められていること、今、中京大学が目指していること」、ゲストスピーカー・安村仁志(学長)
No.	項目	内容																																																			
1	授業ガイダンス	「中京大学を知る」で何を学ぶのか、中京大学の特性とは																																																			
2	大学とは	「大学の使命・目的・歴史、世界と日本の大学、中京大学」、ゲストスピーカー・長滝祥司(国際教養学部教授)																																																			
3	開学前史 ①	学園創立・中京商業学校開校のころ、100年前の中京名古屋、中京経済圏の成立と開校の背景																																																			
4	開学前史 ②	学園創立者の生きた時代と校訓、「学園創立者の人物像と校訓」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)																																																			
5	開学前史 ③	中京商業学校の歩み、戦中・戦後の中京名古屋、新制中京商業高校と短大開学のころ																																																			
6	中京大学の歩み ①	大学開学者の生きた時代と建学の精神、「大学開学者の人物像と建学の精神」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)																																																			
7	中京大学の歩み ②	1955～65年の経済・社会と中京大学、2学部の時代																																																			
8	中京大学の歩み ③	1966年以降の経済・社会と中京大学、4学部の時代																																																			
9	中京大学の歩み ④	スポーツ史からみた中京大学、「中京大学とオリンピック選手」、ゲストスピーカー・栗田真子(スポーツ科学部教授)																																																			
10	中京大学の歩み ⑤	1986年以降の経済・社会と中京大学、総合大学の時代																																																			
11	中京大学の歩み ⑥	2000年以降の経済・社会と中京大学、改革の時代																																																			
12	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、現代的課題への取り組み、「男女共同参画とキャンパス・ハラスメント」、ゲストスピーカー・岡部英樹(国際教養学部教授)																																																			
13	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、学術・研究の観点からみた特性、「研からみた中京大学の特色」、ゲストスピーカー・桑村監生(学長補佐)																																																			
14	中京大学の将来	日本の大学と中京大学の将来像、学園創立100周年、大学開学70周年に向かって、「ミュージアムと中京大学」、ゲストスピーカー・亀井哲也(現代社会学部教授)																																																			
15	中京大学の特性	歴史からみた中京大学の特性を考える、「今、大学に求められていること、今、中京大学が目指していること」、ゲストスピーカー・安村仁志(学長)																																																			
履修者へのコメント	毎回、出席を確認する。講義レポート用紙を兼ねた出席カードを使用。私語は厳禁。講義の基本方針として厳しく対処する。																																																				
事前事後学習	授業前に毎回の提示資料をMaNaBoの教材から取得して、読んでおくこと。授業後には毎回の授業内容をふまえて、課題レポートを作成すること。																																																				

一覧画面に戻る

お問い合わせ

© 2016 MaNaBo

教務課職員からのアドバイス

シラバスは授業の説明書のようなものです。卒業要件や自分の興味・関心に基づいて科目を選択し、しっかり内容を確認して、時間割を組み立てる上での参考にしてください。教務課では、履修相談も受け付けますよ!なお、シラバスは以下より閲覧可能です。履修登録前に必ずCHECKしましょう。

中京大学HP→「メインメニュー」(左上)→「学部・大学院」→「学部教育」→「シラバス(学部)」
<https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus> QRコードはコチラ→



科目ルーブリックとは？

ルーブリックとは

ルーブリック(Rubric)とは、授業やカリキュラムで求められる到達目標を、どの程度達成できているのかを確認するためのツールです。本学では2019年度秋学期より、授業の学修到達目標(シラバスに記述されている、その科目の到達目標)の達成度に関する科目ルーブリックを一部の科目で提示しています。授業を受講する際に、ルーブリックを確認し、学修到達目標に到達するように授業に取り組むよう心がけてください。

※2020年度についても一部の科目にて、受講者に対してルーブリックを公開します。ルーブリックの確認はMaNaBoのコンテンツをご確認ください。

ルーブリックの仕組みと見方

ルーブリックは、評価対象である観点の達成度レベルを3~5段階にわけ、各段階の評価の基準を明示しています。多くの科目では評価の観点(縦軸)が、学修到達目標(シラバスに記述されている、その科目の到達目標)になっており、評価の観点に対して「できるようになってもらいたいこと」が評価尺度ごとに記述されています。

評価観点 \ 評価尺度	目標以上	目標達成	目標まであと少し	もっと努力しよう
意思決定の仕方について理解し、説明できる	意思決定の仕方を最新の研究成果を踏まえて理解し、具体例を交えてわかりやすく説明できる。	意思決定の仕方を理解し、説明できる。	意思決定の仕方を理解しているが、説明することができない。	意思決定の仕方を理解していない。
人間の非合理的な判断や行動について理解し、説明できる	人間の非合理的な判断や行動について最新の研究成果を踏まえて理解し、具体例を交えてわかりやすく説明できる。	人間の非合理的な判断や行動について理解し、説明できる。	人間の非合理的な判断や行動について理解しているが、説明することができない。	人間の非合理的な判断や行動について理解していない。
自分の意思決定の間違いを修正できる	日常生活の場面で自分の意思決定の間違いに気づき、修正した意思決定を実行できる。	自分の意思決定の間違いに気づき、修正できる。	自分の意思決定の間違いに気づくことができるが、修正はできない。	自分の意思決定の間違いに気づかない。
他人の意思決定の間違いを修正できる	日常生活の場面で他人の意思決定の間違いに気づき、相手に納得感を持って修正してもらうことができる。	他人の意思決定の間違いに気づき、修正できる。	他人の意思決定の間違いに気づくことができるが、修正はできない。	他人の意思決定の間違いに気づかない。

達成目標: できるようになってもらいたいこと

ルーブリックの活用方法

学修到達目標を達成するために、どの状態になっていけばいいかをルーブリックで確認し、授業に取り組んでください。また授業で出された課題だけでなく、文献やデータを調べる、仲間と議論するなどして事前・事後学習に積極的に取り組んでください。

CHUKYO MaNaBoで大学の「学び」を充実させよう!

CHUKYO MaNaBoとは

「CHUKYO MaNaBo」は、授業資料のダウンロードやレポート提出などができる教育支援システムです。

トップページの時間割にはみなさんが履修した科目が表示されており、資料や教材などの新着情報がある科目には「New」のアイコンが表示され、新着情報を見逃さないよう工夫されています。さらに、受講科目の画面にはシラバスや授業計画が掲載されているので、毎回の授業内容や学修到達目標を確認しながら受講することができます。また動画や音声を用いた教材などもあり、授業の事前・事後学習をより効果的に行うことができます。提示された課題に積極的に取り組むことにより、さらなる知識の定着をはかりましょう。

活用方法

「CHUKYO MaNaBo」は新入生のみなさんが入学時に準備したノートパソコンをはじめ、専用のアプリ*1をインストールしてスマートフォンやタブレットでも利用することができます。通学のバスや電車の中、授業の合間などのスキマ時間なども有効に活用して、主体的に学ぶ習慣を身につけていきましょう。

*1 携帯端末専用アプリ「Glexa mobile」はApp Store、Google Playからダウンロードできます。

先輩の声



授業に関する質問を「FAQ」にまとめたものや追加資料などの掲載や、何回でも回答できる小テストが提示されるなど、定期試験前の復習に便利です。



アイテムID	アイテム名	提出	提出済	提出済/総数	平均	標準偏差	平均	標準偏差	コメント
トピック	小テスト (準) 2020	✓	1 / 15	17%	0	0	0	0	
トピック	Quiz	✓	0	0%	0	0	0	0	
トピック	Report	✓	25 / 100	25%	2	38	30	25	高い得点です
トピック	test	✓	0	0%	0	0	0	0	
トピック	Material	✓	0	0%	0	0	0	0	
トピック	15170 英語を用いた授業	✓	0	0%	0	0	0	0	
トピック	Quiz	✓	0	0%	0	0	0	0	
トピック	Quiz	✓	0	0%	0	0	0	0	
コンテンツ	15170 英語	✓	0	0%	0	0	0	0	
20191201	Report 1	✓	0	0%	0	0	0	0	
20191209	Quiz A	✓	3 / 3	100%	1	0	0	0	
20191210_#1	Quiz B	✓	3 / 3	100%	1	0	0	0	
20191210_#2	Quiz C	✓	0	0%	0	0	0	0	
20191210_112	Quiz D	✓	0 / 5	0%	1	0	0	0	
20191210_1	Quiz E	✓	0	0%	0	0	0	0	
# 5	Forum	✓	0	0%	0	0	0	0	

毎回予習・復習の課題への対応は大変だったけど、頑張って取り組むことで理解が深まりました。



自分が提出した質問に対して、先生が「いい質問ですね」とコメントしてくれているのを見ると、やっぱりうれしいですね。



課題やレポートの提出状況を「マイページ」で確認できるので、自分の学習状況を振り返るとゲームの高スコアが出たみたいに「これだけ頑張った!」という達成感を感じて、ますます意欲がわいてきます。



事前・事後学習に取り組もう!

単位について

2単位 90時間

大学の1単位の定義は、「45時間の学修を必要とする内容(文部科学省令の大学設置基準)」と定められています。また、1単位を得るために大学が行う授業時間について、講義及び演習は15～30時間、実験、実習及び実技は30～45時間と定められています。

講義及び演習を例にとると、まず1単位は45時間の学修(時間)を必要とするので、2単位ということは90時間の学修時間が必要となります。次に授業時間は「1単位15時間の授業時間×2単位=30時間(授業時間)」となります。90時間(2単位)－30時間(授業時間)=60時間となり、つまり60時間は授業時間以外での学習の時間となるわけです。これは15回の講義だと、60時間÷15回=4時間となり、各回の授業時間以外に2時間の事前学習と2時間の事後学習が必要とされています。



大学での勉強方法

授業前

●シラバスの授業計画を確認し、予習をする。

- 例) ●教材を読む
●事前課題に取り組む
●用語などを調べる

授業

- ホワイトボード(黒板)、スライドを写すだけでなく、
教員の話聴きながら流れを理解し、ポイントをメモする。
●ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、
仲間(同級生・先輩・後輩)に自分の意見を伝える、議論して考える。



●大学の授業形式

講義	教員の話聴いて、ノートをとる。授業の進め方は教員によって異なる。
実習・実験	仮説をもとに実験したり、データや資料を集めて分析したりする。節目ごとにレポートを提出。
演習・ゼミナール	少人数でテーブルを囲み、学生が調べ考えたことを発表し、それをもとに学生同士で討議する。学期末には、まとめのレポートを提出。教員はあくまでもアドバイザー役。

授業後

- 授業で学習した点について、復習をする。
例) ●課題に取り組む
●図書館やインターネットなどを活用し、文献やデータを読む
●用語などを調べる
●オフィスアワーを利用し、疑問点を先生に質問する
●レポートを書く、プレゼンテーションの準備をする。
●自分で調べたこと、考えたことを道筋立ててまとめ、自分の言葉でまとめる。

授業改善のためのアンケート

中京大学では、提供するカリキュラムや授業等の学びの機会が、学生の皆さんにとってより良いものとなるよう、様々な教育改善に関する活動を行っており、全学的な取り組みの一つに「**授業改善のためのアンケート**」があります。このアンケート結果から皆さんの授業に対する満足度や意見を知ること、授業担当者は授業改善に結びつけていく努力をしています。2019年度春学期の回答率*1は**67.9%**、秋学期の回答率は**60.9%**でした。

一人でも多くの学生の皆さんに回答いただくことで、より正確なアンケート結果となり、学生の皆さんの声によりよいカリキュラムや授業等の改善につながります。また、授業アンケートの集計データと、結果に対する授業担当者のコメントをWEB(MaNaBo)にて公開しています。

*1 回答者数÷履修者数×100

・ 授業改善のためのプロセス ・



授業改善のためのアンケートをWEB(MaNaBo)で実施

※各学期の第13～14週目に実施

アンケート回答結果を授業担当者へフィードバック

授業担当者はアンケート結果をもとに次年度以降の改善に向けたコメントを入力

学部内の点検担当者による、改善に向けたコメントの確認

これを
確認しよう!

アンケート結果と授業担当者コメントを
WEB(MaNaBo)にて公開

※自分が履修した以外の科目の情報も見ることができます

学生

アンケート結果と授業担当者コメントを
次期履修の参考にする

教員

アンケート結果をもとに、
担当科目の授業改善に結びつけていく

中京大学では、授業環境や学内環境の改善に向けて、学生の皆さんの貴重な意見を集約し、今後の環境整備等の参考資料として活用することを目的に「**授業環境・学内環境に関するアンケート**」も同時に実施しています。具体的には、教育支援システム、教室の照明、空調、机、Wi-Fi環境、学習スペース、休憩スペースなどがその対象です。学生の皆さんから届いた声は学内で公開するとともに、環境整備や計画策定に役立てています。



FDセミナー～授業設計とルーブリック～

●開催日:2019年11月12日(火)

2019年度の秋学期から授業科目にルーブリックを導入する取組を開始しており、授業設計にそったルーブリックの活用を推進する方策の一つとしてFDセミナーを開催しました。講師として立命館大学教育開発推進機構の沖裕貴教授をお招きし、あらためて、3つのポリシーから授業設計、成績評価までを一貫したものとして捉え、そのうえでルーブリックの活用や効果についてご説明いただきました。



参加者の声

セミナーでは授業科目の設計にあたり、DPからCPをふまえた到達目標の設定、ルーブリックの作成と効果、成績評価など、学士課程教育の体系から自らの講義を設計する重要性を認識させられました。シラバスを作成する際にはどうしても担当科目のことだけを考えてしまいがちですが、各科目の設計がカリキュラム全体からどうなされるべきかを考える貴重な機会となりました。

ルーブリックについては、どのように作成、利用するかが悩ましいところでしたが、到達目標とルーブリックの役割やパフォーマンス評価の理論などを踏まえて説明頂いたため、理解を深めることができました。改めて担当科目の到達目標と評価について見直してみたいと思いました。

(総合政策学部 准教授 佐藤茂春)

FDセミナー～多人数授業におけるアクティブ・ラーニングの活用について～

●開催日:2019年12月6日(金)

本学は教育の質保証に向けた取り組みとしてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業実施を推進しており、アクティブ・ラーニング推進方策の一つとして「多人数授業におけるアクティブ・ラーニングの活用」をテーマにFDセミナーを開催しました。講師として愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の中井俊樹教授をお招きし、発問と指示の組み合わせやグループワークを工夫する方法など他大学の事例を提示してアクティブ・ラーニングの活用方法についてご説明いただきました。



参加者の声

いきなりアクティブ・ラーニングの解説をするのではなく、多人数授業の特徴から始まり、学生に意思表示をさせるツールの実例が紹介されました。「問われると人は考える」という発問の重要性、教員は多少の沈黙を我慢する必要があるといった授業の基本の説明もありました。すでに授業改善に取り組んでいる教員にとっては、常識的内容かもしれませんが、参考になった大学教員も多かったのではないのでしょうか。多人数授業でのグループワークでは、フリーライダーを排するために2人組で、1人1分話す程度から始めるという提案もありました。あらためて、アクティブ・ラーニングが単なる手法の導入ではなく、学生たちの学びの改善につなげることの重要性を感じました。

(スポーツ科学部 教授 李子耕一)